

かやっ子



与謝野町立加悦小学校 研究推進委員会
令和3年10月19日号
自ら考え、関わり、挑戦する児童の育成
～言葉を通した確かな学び～



～友だちとつながろう（ソーシャルスキルトレーニング）～

本校では、学力の向上を目指していくにあたり、自分の教室で安心して学習するために、友達とのかかわりが大事だと考え、コミュニケーション能力の育成にも力を入れています。

6・7月は、「仲間とつながろう」というテーマのもと、「仲間に入れてほしいとき、友だちを遊びに誘いたいとき、どのように声をかけるとよいか」を考え、実演してみることで、自分も相手も大事にした言い方や行動について学習できました。

9・10月は「力を合わせよう」というテーマで、「やさしい頼み方・上手な断り方」とはどういうことかを考え、実演してみました。「顔を見て」「やさしい声で」「順番を待って」頼む、「理由を伝えて」「次の約束をして」「ごめんねと言いながら」断る、など、自分も相手も大事にした言い方を考えることができました。実演も交えての学習なので、実生活に生かします。家庭や地域で、このような姿が見られたら、「上手に誘えたね。」「相手を思っている断り方ができたね。」など、すかさず褒めてください。大人も、忙しいときほど「ごめんね、〇〇が終わるまで待ってくれる？」と、顔を見て、やさしい声で上手に言えるようにしたいですね。

5年国語「固有種が教えてくれること」

先週、5年1組で研究授業を行いました。本文の内容を読み取ることに加えて、効果的な資料の活用についても学んでいきます。図や表、グラフ等、たくさんの資料が、本文のどこに関連していてどんな意図で使われているのかを考えることで、資料を用いるよさに気づき、この後の学習に生かしていきます。

この後の学習では、様々な統計資料を用いながら「社会が暮らしやすい方向に向かっているか」というテーマで自分の考えを文章でまとめます。「固有種が教えてくれること」で学んだ、「文章構成の工夫」や「資料の活用の仕方」を自分の意見文に生かしていきます。どんな意見文に仕上がるのか楽しみです。



資料がどの部分を示しているのか、本文と照らし合わせながら読みます。何度も読み返すと、キーワードが見えてきます。



資料と本文との関連をみんなで確認します。そして、筆者は、この資料を使うことで、何を伝えようとしているのか考えます。



資料の効果を、まずは自分で、次にグループで、最後にみんなで考えました。「同じ島国でもイギリスの固有種はゼロ。比較することで日本の固有種の多さを強調したい」「大陸から日本が切り離されることで、固有種が生まれたことを伝えたい」などの意見を交わしました。友達と考えを交流することで、一人では考えつかなかった考えにも触れることができ、資料の効果についての学びを深めました。



先生たちの実演により、どんな場面かを理解し、こんなときはどう言えばよいかを考えます。
考えたら実際にやってみます。「重いから一緒に運んでくれる?」「いいよ。」「ありがとう。」気持ちのよいコミュニケーションを身に付けさせたいです。



友達が使っているペンを借りたいときは・・・。「このペンが使いたいで、後で貸してくれへん?」「うん、いい。」「ありがとう。」「・・・日頃使っている言葉で、自然なコミュニケーションがとれる姿も見られました。高学年では、急用ができて委員会の当番活動を変わってほしいと頼むとき・・・という設定でした。変わってほしい理由もつけ加えて頼むことができ、「ごめんね。」と一言添え、上手に頼む様子がありました。あとは実行あるのみ!!